

読者のページ

「建設コンサルタントの○○さん」と言われたい ～入社2,3年目の若手技術者座談会～

国土総合研究機構 次世代ビジネス研究会事務局

和作 幹雄 WASAKU Mikio

◆ 国土総合研究機構

国土総合研究機構は、(株)建設技術研究所(以下CTI)、日本工営(株)(以下NK)、パシフィックコンサルタンツ(株)(以下PCKK)の3社によって、平成12年12月に設立された組織です。

地方分権化および民営化、少子高齢化と人口減少、低炭素社会などの動向とあいまって建設コンサルタントの役割は、大きく拡大しつつあります。このような状況下において、3社は建設コンサルタントのリーディングカンパニーの一員として、社会的地位の向上のために共同で実施すべきことについて検討し、推進することとしました。

現在、同機構では「次世代ビジネス研究会」「インフラストラクチャーマネジメント研究会」「教育研修研究会」「LCDM研究会」「観光まちづくり研究会」「電子納品実務研究会」「デザインビルド研究会」という7つの研究会を設けて活動を行っています。

国土総合研究機構 幹事会	
(株)建設技術研究所(CTI) 常務取締役	小松 泰樹
日本工営(株)(NK) 取締役専務執行役員	西谷 正司
パシフィックコンサルタンツグループ(株)(PCKK) 専務取締役	児玉 豊
事務局長 (株)建設技術研究所 東京本社副社長	中村 哲己

◆ 座談会の開催

次世代ビジネス研究会では、「コンサルタント」という名前にとらわれない「次世代ビジネス」について広く議論していて、現在、建設コンサルタントの魅力向上について



小松泰樹(世話役)の挨拶風景

検討しています。平成21年1月に『魅力アップに向けて』の行動方針を策定し公表しました。(機構のホームページ参照 <http://www.kokudokikou.jp/index.htm>)

このたび、3社の2,3年目の若い技術者と中堅の技術者に参加いただいて座談会を開催し、建設コンサルタントへの入社動機や魅力、夢、目指すべき方向などについて語っていただきました。

建設コンサルタンツ協会会員各社の若い技術者にも大変興味深い内容かと思ひ紹介する次第です。

今回は、2,3年目の若い技術者による「入社して感じたことと自分の夢」というテーマで開催した座談会についてご報告します。

次世代ビジネス研究会	
CTI	小松泰樹(世話役) 西村達也(研究会委員) 磯部猛也(同)
NK	吉田保(研究会委員) 上田裕之(同) 西畑賀夫(同)
PCKK	高木茂知(研究会委員) 水谷進(同) 西矢義人(同)

◆ 参加者

氏名	氏名	勤続年数
小池 麻里	CTI 東京本社水工部	2年
江副 拓良	同 東京本社社会システム部資源循環室	1年
大和 賢弘	NK 社会システム事業部都市・地域計画部	1年
寺本 雅子	同 流域・都市事業部地盤環境部	1年
鶴見 悠史	PCKK 環境事業本部資源・環境部	2年
渡邊 哲也	同 交通技術本部空港部	2年

司会進行:磯部猛也 次世代ビジネス研究会委員

開催日時:平成21年7月21日(火)

開催場所:日本工営(株)

◆ 挨拶

小松泰樹:われわれ次世代ビジネス研究会では、「建設コンサルタントは魅力がある」と思っていますが、そのこ

とが社会に伝わっていないということに問題意識をもってセミナーを開いたり、『魅力アップの向上』の行動方針をつくって公表するなどいろいろ試みてきました。

建設3紙(建設工業新聞、建設通信新聞、建設産業新聞)と議論したときに、「建設コンサルタントはいいことをやっているのだから、もっと自信と誇りをもってやっていくことが何よりも大切じゃないか」と思うようになりました。

そこで3社の社員の皆さんが「どう考えて仕事をしているのか」を、是非聞いてみようということで座談会の開催に至りました。座談会の結果を学生へのPRなどの参考にしていきたいと思っておりますので、ざっくばらんにお話してください。

——入社動機を聞かせてください

鶴見悠史:自然が好きで大学では環境を学び、将来は環境に関する仕事がしたかったのです。研究室にPCKKの方が博士号を取りに来ていたので、就職先は建設コンサルタントのイメージがありました。

江副拓良:父が建設コンサルタント業界にいたので業務内容をおおよそ知っていました。就職先としてゼネコンと役所と建設コンサルタントを考えましたが、建設コンサルタントの先輩の説明会で、忙しいけど楽しそうに話を聞いて感じが良く、やりがいがある業界かなと思ったのです。

大和賢弘:大学で学んだ都市計画に携わる仕事がしたいと考えており、公務員と比べ、自らの手で計画作成ができる建設コンサルタントを選びました。慕っていた先輩から「公務員は向かない」と言われたことも大きかったです。また、ゼネコンは人の知恵よりも機材等を使うイメージが強く、一方で建設コンサルタントは自らの知恵やノウハウが武器といった点に魅力を感じました。

小池麻里:橋をつくりたいと思っていて、ゼネコンでは設計部への配属が難しいと聞いていて、建設コンサルタントだと企画・設計ができるだろうと思って決めました。そ



鶴見悠史(PCKK)



寺本雅子(NK)

れに自分で設計したものをみんなに利用して欲しいと思いました。

渡邊哲也:父が大きな橋が好きで、四国の連絡橋を見る機会がありました。将来は橋をつくってみたいと思いましたが、先輩の話によるとゼネコンで設計できる人は一握りの人で、設計に携われるようになるには5~10年かかることでした。公務員は事務方の感じが強いので、設計するなら建設コンサルタントだと思っていました。就職活動時に橋梁メーカーの不祥事があったのと、PCKKの会社説明がアットホームな感じがあったので決めました。

寺本雅子:博士になったのですが職業としてのリアリティがなく、物をつくって利益をあげるのは嫌いで、また役所へ就職した友達が疲れている感じで、たぶん自分の主張が通りにくいのかと思いました。自分が成し遂げたいことがあるときにその意思が反映できる仕事ではないかと思い建設コンサルタントに就職しました。

——入社して良かった点や悪かった点などを聞かせてください

寺本:まだまだ思い通りにできず自分自身に対するギャップがあります。発言できるようになるまでには3~5年かかると思っています。建設コンサルタントは、「技術が武器」だと思っていましたが、会社の人事の人に「挨拶が大事」と言われてびっくりしました。しかし、仕事を進めていくうえで対話が大事で、技術を活かす土台になるのが、きちっと対話ができることだということに気づきました。

鶴見:良かった点は、思っていたより自分のやりたかったことができるし、大学時代に自分で気づいていないところで「やってみると面白かった」ことができることです。悪かった点は、聞いていた通りやはり忙しいです。また、就職活動のときも考えていて、今も良くわかっていない点があります。それは建設コンサルタントは、公益性が高く求められるので、エンドユーザーとお客さんが求めている結果が違ったときの対応において、本当に優先させる



江副拓良(CTI)

渡邊哲也(PCKK)

べき点は何という点で、公益性の確保を優先する際、お客さんと衝突が避けられない場合があります。

渡邊:私が所属している空港部は設計と計画等の業務をしています。思っていたより残業が少ない点が良かったです。設計業務に関しては、基準に則すれば自由な発想ができる点が好きなのですが、計画業務の場合には、基準だけでは全てに対応できなく、成果に求められる精度の点についてギャップを感じます。

江副:会社説明会で「設計したものができあがるのを目の当たりにした時にやりがいを感じる」と若手社員が答えているのを聞いて「偉そうに」と思っていたのですが、入社して1年目に小さいものですが図面を描いて数カ月後に出来上がったのを見て感動しました。ギャップとは違いますが、これが「やりがい」だと思いました。悪かった点は残業が多い点です。仕事に楽しさを見つかる余裕がまだないですが、楽しさを見つけてこそ一人前だと思っています。

小池:良かった点は、もっと残業が多いと思っていましたが、結構「飲みニケーション」や「スポーツ大会」など、仕事以外の行事もあってコミュニケーションの場があることです。反省すべき点は、大学時代の勉強だけでは足りないと思いました。構造物の設計には専門の知識以外に社会情勢や環境面の勉強も必要です。

大和:学生時代にすごい資格だと思っていた技術士や一級建築士を多くの先輩が普通に持っており、職場環境のレベルが高いと感じます。自分の技術者としてのレベル向上が期待できるのが魅力だと思います。しかし、発注者ともう少し対等だと思っていましたが、それほどもなく建設コンサルタントの自由度や発言力が小さい感じがしています。

——楽しいことや将来の夢などを聞かせてください

江副:今は業務を消化するのに精一杯です。やりがいは、自分で設計したものを目の当たりにすることで、夢は

最終処分場を設計することです。そのためには必要な道路や電気の知識を身につけて、戦える技術者になる必要があります。

寺本:楽しいことは現場でボーリング作業員と話をしたり、調査業務で分析結果がでてくる瞬間です。業務は、まだ受動的なので楽しいことはありませんが、たぶんクライアントへ提案できるようになって、それが採用されるようになると楽しくなると思います。

鶴見:楽しいことは「プロポーザル作成時」や「業務成果の納品時」の瞬間です。業務の実施中は、つらく感じる人が多いです。夢は我々の業務が社会的な貢献になり、その公益性の高さを社会に認めてもらうことです。

小池:楽しいことは、プロジェクトで異分野の話が聞けて視野が広がることです。夢は、全てを管理できるシビルエンジニアになることと、次世代の子供に土木や河川構造物の楽しさを知って味方になってもらうことです。

大和:都市計画の仕事ができていること自体が楽しく、特に、行政よりも住民目線の計画づくりをしているときが楽しいです。夢は、日本に多く存在するさびれた町や集落のどこかを「大和がいなかったら変わらなかった」と言われるような計画で立て直すことです。

渡邊:空港は希少価値の高い業務ですので、現場調査で空港の「制限区域内」に入れること等が楽しさの一つです。それとやりがいを感じたことは、バスターミナルの計画で私と上司と発注者の提案の中で私の案が採用されたことです。夢は、海外の空港を計画・設計することです。

——OJTについて聞かせてください

江副:一人で勉強するのが苦手で、OJTで先輩が教えてくれるのはわかりやすいです。自分で勉強するのは大事だとは思いますが。

鶴見:OJTで十分だと思います。ただ、学ぶ方のモチベーションが低いと、上司の言われた通りに報告書を作成

することになったりして、あまり身に付かないと思います。忙しくても自ら技術を吸収する工夫などして、モチベーションを高く保つことが必要だと思います。

小池:OJTは重要です。中堅技術者に付いて2~3年は仕事を教えてほしいです。さらに、構造設計の特徴かもしれませんが「小規模な詳細設計」を1件納品まで任せていただければ、知識も責任感もつくと思います。

渡邊:自分の仕事への心掛けが大事で、叱られた仕事はよく覚えていて理解度が高いと思います。そういう動機付けも必要でしょう。2つ目は自分から進んで質問することです。私は、なぜこの計算式を使うのかを突き詰めながら仕事をしています。

寺本:OJTは大事ですが、先輩や上司とウマが合うか否かが重要で、配置替える機会があるとよいと思います。例えば、一通り習った3年後くらいに変更することでモチベーションも高まるかと思っています。

大和:小さくてよいので自分が主体となる新入社員卒業業務みたいなものがあるとよいと思います。「この業務はお前のための業務だ」と新人用に任せてもらえれば嬉しいです。また、業務時間の数パーセントを自己投資の時間に使える制度がある会社では、社員の成長が早いと上司に教えてもらいました。

——どういった技術者になりたいか聞かせてください

小池:技術士になって、早く一人でもかせられる技術者に



小池麻里(CTI)

大和賢弘(NK)

なりたいです。

大和:若いうちは「2009年は〇〇をやる」とエクセルに具体的に整理し、チェックしながら勉強しています。将来は、主体性をもって業務を任せられる技術者になりたいです。

渡邊:30歳までに技術士になって「PCKKに渡邊がいる」と言われたいです。

江副:発注者から「また江副に頼みたい」と言われたいです。

寺本:なるべく自分が客観的に見られるようになって、最終的にNKでなく「寺本さん」と言われたいです。

鶴見:仕事面では一人のコンサルタントの鶴見と認められるようになって、生活面でも全力で謳歌して、仕事と生活をバランスさせていきたいと思っています。

❖ 最後に

「最近の若い者は何を考えているのかわからん」という話をよく耳にしますが、座談会では、しっかりと自分の夢を語っていました。「業界を託せられる技術者」がいるという印象を得て、安心した次第です。

座談会での意見などを参考に、研究会では建設コンサルタントの魅力向上へ向けた検討をさらに進めていきたいと思っています。

今回は、中堅の技術者による座談会を紹介したいと思います。



座談会風景